

子どもが選んだ本から夢の給食が実現 ～読書週間における給食と本のコラボレーション～ 他

奈良県 葛城市立新庄小学校

基本データ

所在地	葛城市南道穂 176-1
児童生徒数	825 人
教職員数	58 人
蔵書数	20,548 冊
年間貸出冊数	48,734 冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】読書啓発・指導、授業改善、教員による利活用の推進

【活動のねらい】

- (1) 読書週間における給食と本のコラボレーション
全校児童が「今日は何の本から給食が出るのかな?」と関心を持ち今回の取組をむかえることができるようにする。委員会児童が「自分たちが取組を作りあげている」と主体的に今回の取組に参加できるようにする。学校給食センター、栄養職員、図書館補助員との連携を図る。
- (2) 読書感想画コンクールの出品
子どもたちが表したいものを見つけ、どのように表すかを考え表現方法を工夫する。

取組・活動の概要

(1) 読書週間における給食と本のコラボレーション

- 学校給食センター、栄養職員との連携を図り、読書週間(10月27日～11月9日)における給食に、本校図書委員会の児童が選定した本の中から、本に掲載されている料理や食べ物を登場させてもらった。
- 平成30年度に初めて栄養職員の発案により本に関わる給食メニューが読書週間に登場したのだが、せっかくの取組なのに受け身であったため児童が知らない間に終了してしまった印象があった。
- そこで、令和元年度は司書教諭が中心となって企画段階から児童に関わりをもたせ、委員会児童だけでなく、本校の児童や保護者、教職員もわくわくした気持ちで今回の取組を迎えられるようにした。
- そのために、司書教諭が学校給食センターや栄養職員、図書館補助員と打合せを重ね、どうすれば広く周知できるかを検討し、号外の給食だよりや、各クラスで学級担任がガイダンスをできるようにプレゼンテーション資料を作成、図書室前に対象の本や給食の写真を掲示するなどの工夫を行った。



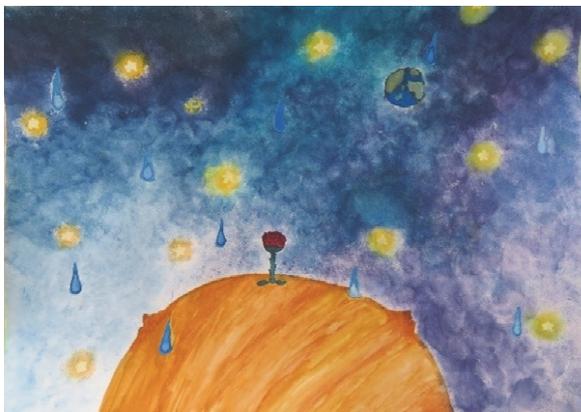
読書週間の給食メニューと本の紹介(給食だより号外)



給食メニューの写真と対象の本の掲示

(2) 読書感想画コンクールの出品

- 小学4年生の図画工作科の授業で、子どもたちが自分のお気に入りの本の中から読書感想画にしたい本を選び、そのお話からわき上がるイメージを大切にしながら図工専科の教員と学級担任が連携して読書感想画の実践に取り組んだ。



読書感想画の例：作品名「モヤモヤした気持ち」
本『星の王子さま』の悲しみを表現

取組・活動の工夫や特徴

- ### (1) 読書週間における給食と本のコラボレーション
- 司書教諭と給食センターとの事前打合せ(ねらいの共有)。
 - 図書委員会の児童が給食に登場させたい自分のおすすめ本とその理由を書く。
 - 図書館補助員が聞き取り調査から出た本を学校図書館から準備し栄養職員へ貸出。
 - 委員会児童と一緒にイベントの案内を作成し、児童のよく通る図書室前に対象の本を展示。
 - 司書教諭が児童に向けたプレゼンテーション資料を作成し、各クラスで学級担任がガイダンスを行い、教職員と児童に今回の取組を周知。
 - 図書館補助員が図書の時間に当日の対象の本の読み聞かせを実施。
 - 栄養職員が給食だより【号外】を作成し、市内全校児童に配布した。保護者にも今回の取組を周知。
 - 登場した給食の写真をすぐに掲示して、関心をひくようにした。

(2) 読書感想画コンクールの出品

- 図工専科の教員と相談する。
- 長期休暇を利用して、児童が自分の表したい本やイメージをもつ。

取組・活動の成果や今後の展望

(1) 読書週間における給食と本のコラボレーション

- 図書室前の掲示物の前に毎日立ち止まって、今日の対象の本は何かを確認したり、対象の本を手にとり本を楽しんだりする様子が見られ、「今日の給食、どんなのかなあ」と毎日の給食を楽しみに待っていた。本を読んだ児童らには、自分の想像していた物と実際に登場した物のイメージの違いに驚きの声もあった。
- 今後、本校の取組を紹介し、市内各校にも取組を広げていきたい。

(2) 読書感想画コンクールの出品

- 自分の思いと表現のギャップを感じている児童がいた。何を描きたいのかについて丁寧な聞き取りが必要なので、その部分は学級担任がサポートをしていくとよい。